

## 病弱生徒の教育 80人在り方探る

福井で近畿東海北陸大会

病弱虚弱の児童生徒の教育の在り方を考える「近畿・東海・北陸地区研究連盟研究発表大会」が27日、福井市のアオッサであった。写真。

13府県の特別支援学校でつくる同連盟が主催。県内外の教員や福祉関係者ら約80人が参加した。東洋大文学部教育学科の滝川国芳教授(勝山市出身)が講演。「病気で登校できない場合は、テレビ会議システムで病室内でも授業を受けられる」と述べ、教育現場でのICT(情報通信技術)の積極的な活用を提言した。続いて「障害が重い子どものキャリア教育」「病弱教育と肢体不自由教育部門との連携」など四つの分科会で、学びの支援について意見交換した。(堀英彦)

